



「幸福に生きるポイント」

校長 丸岡 恵真

10月になりました。9月は予想以上の、ほんとうに暑い日が続きました。

新型コロナウイルス感染症の「第9波か」という言葉が聞こえてきたり、「今までとは季節が違うでしょう?」と言いたくなるようなインフルエンザの話が届いたりしています。しかし、本校ではクラスター化するようなことはなく、学級閉鎖といったこともなく過ごせました。

職員には、<検温を怠らぬこと>、<基本的な うがい・手洗い・消毒の励行>そして、当然着けられない事情のある方もありますが、<マスクの着用の少し強めの推奨>をお願いしていました。子どもたちも含め、中には重篤化される方もいらっしゃいますので、皆様も引き続きの留意をお願いいたします。

そのような中、2学期最初の1ヶ月ほどですが、子どもたちはエネルギーに学習、活動していたと思います。先週、参観していただいた授業でもお感じになったのではないのでしょうか。

今週は中学3年生の修学旅行がありますし、その取組も進めてきました。高等部の修学旅行も同じですし、11月1・2日のやまぶき祭に向けても疾走している感じです。



健康に留意しながら、10月も充実した日々を過ごしてほしいと思っています。

さて、その「充実した日々」ですが、本校は『どんな人間になってほしいか』ということで、『目指す人間像』:「より良い社会と幸福な人生を創り出せる人」を置いています。

今、よく「ウエルビーイング」という言葉を聞きますが、「幸福」がこの時代のキーワードのように思います。

元来、「幸福」というものは人それぞれで、他人から見ると取るに足りないと思えることでも、本人にとっては「幸せだなあ」と思えたりするものです。自分の趣味のことであったり、家族とのことであったり、本当にそれぞれ、様々です。

これまた、職員に「仕事をする上でも幸福がある」という話もしました。「こんなことができるようになった」と能力が伸びたことを実感したり、「他人の役に立った」と自己有用感を感じたりする。

「幸福」ということが気になっていましたら、たまたま京都新聞で『科学的に幸福度を高める 50 の習慣』(島井哲志さん、明日香出版社)という本が紹介されていました。つまみ食いの読んだだけですが、<仕事>、<毎日の行動習慣>、<毎日の考え方>、<人間関係>、<余暇・趣味>の5つの章立てで、50の「幸福度を高める習慣」が紹介されています。50も習慣づけることはかなり難しいですが、いくつかでも実践すれば「幸福」を感じるが増えるでしょうか。例えば身体的なことだけでもどうでしょう。

17:「おいしさを大切に、味わって食べる。」⇒早食いの私が言っても駄目ですが、おいしいものを少しずつ小鉢や小皿などに盛り付ける和食の良さが紹介されています。大食いより味わうことが良いようです。

18:「質の良い睡眠を取る」⇒これまた耳が痛い話ですが、目覚めの時間をしっかりと確保し、陽の光をできるだけ入れていくことが脳の寝覚めの第一歩だそうです。

子どもたちに関わって言えば、こういった状態で学校に送り出していただく上に、学校生活の中でも「幸福度を高める活動」をふんだんに行います。<余暇・趣味>を広げることも取り組みますし、友達や地域の大人の方々とも旺盛に<人間関係>をすすべる本校です。10月もがんばって<幸福>を追求してみます。

ひきつぎの御理解、御協力をお願い申し上げます。

■ スポーツ・文化を楽しむ日 (ISCC) のお知らせ ■

11月22日(水)13:30~14:30に学校運営協議会主催の「第3回スポーツ・文化を楽しむ日」を実施します。今回の内容は、保護者の方も参加していただけますので、ぜひお子様と一緒に御参加ください。後日詳細をお知らせします。また、9月20日(水)に実施した「第2回スポーツ・文化を楽しむ日」の動画を本校ホームページに掲載しますので、お楽しみに!!

■ 高等部取組紹介 ■ ふれあい・心のステーション ～楽しく・澁刺と爽快に～

9月の障害者雇用支援月間に京都府立特別支援学校の生徒による製品販売・体験展示等を行う「ふれあい・心のステーション」が大丸京都店において開催されました。第26回となる今年度、井手やまぶき支援学校として初めての製品販売を行いました。高等部の作業学習で行う作業種の農園芸で収穫できた水菜、小松菜、そして木工で製作したやまぶきコースターやカンナフラワー等を販売しました。来店していただいたPTAの皆様、そして多くをお買い求めいただいたお客様、ありがとうございました。

ふれあい・心のステーションでの販売は、生徒たちにとっては、大きな舞台での販売となりました。事前学習として、ブース紹介や接客方法等を繰り返し学び、当日はしっかりと力を発揮することができました。このふれあい・心のステーションは、高等部3年生が参加しています。学校の代表であるという自覚のもと、製品販売の中で学校をアピールしたり、下級生の頑張りを伝えたりと、楽しく、澁刺と颯爽に販売する姿に、3年生としての貫禄があふれて出ていました。



(ふれあい心のステーション:がんばったこと)
 きんちょうしたけれど、着ている元氣よく接客をすることができました。お客様に商品をしていかに説明することができました。私が作ったかんぱわーを買ってくれたお客様の心があたにかい気持ちになりました。

(ふれあい心のステーション:がんばったこと)
 はんばい きんちょうしました。フレステは楽しかったです。テレビのニュースにもちががっけました。せつめいとはんばいをがんばりました。

ふれあい・心のステーションの事後学習として、振り返りを行いました。「楽しかった」という生徒の感想!!働くことは楽しいことを実感できました。

ふれあい・心のステーションにおいて、販売した製品については、

尾崎林産業株式会社様
 かわな工業株式会社様
 有限会社志木様



に木材提供及び技術指導、ポスター作成の御協力をいただきました。改めて、感謝申し上げます。

■ スポーツと文化を楽しむ日 (ISCC) ■



ISCC

IDE
SPORT
CULTURE
CLUB

この仕組みを踏まえて、本校では学校運営協議会主催「スポーツ・文化を楽しむ日 (ISCC)」を年4回実施しています。子どもたちにとってこの日は、スペシャル DAY!!ちょっとしたお祭り気分、スポーツや文化を地域の方たちと楽しむ日になっています。次回は、保護者の皆さんもぜひ御参加くださいね。

本校は、教育理念である「地域と共に歩む学校」として、地域のすべての人と一体となって「共生社会」の実現や地域の振興を担う学校を目指しています。学校運営協議会は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律(地教行法第47条の5)に基づいた仕組みです。(図:文部科学省HPより)

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



